

ひろしま 青少協だより



平成22年(2010年)3月
発行
広島市教育委員会
青少年育成部育成課
(☎242-2013)

毎月第三日曜日は
家庭の日

毎月22日は
子ども安全の日

毎月17日は
青少年の日

第23回広島市青少年 健全育成市民大会

市民総ぐるみの青少年健全育成活動を推進するとともに、市民意識の啓発を図ることを目的として、平成21年11月21日(土)午後、広島市、広島市教育委員会、広島市青少年健全育成連絡協議会(以下、市青少年協)の共催で、第23回広島市青少年健全育成市民大会が、広島市青少年センターホールで開催されました。

この大会には、各地区の青少協役員や青少年指導者、学校関係者など約六百人の市民が参加しました。

大会は、秋葉市長、打越市青少協会長の主催者挨拶で始まり、さらに藤田市議会議長よりご祝辞を賜りました。

続いて、長年にわたり青少年健全育成に功労のあった方々や団体に、市長及び市青少協会長より表彰状が手渡されました。

さらに、『青少年からのメッセージ』入選者の表彰式が行われました。(「青少年からのメッセージ」については関連記事を次ページに掲載しています。)



手話劇「フシギなタマゴ」



表彰式に続いて、宇品東小学校の子どもたちによる手話劇「フシギなタマゴ」が上演されました。

この手話劇は、社団法人青少年育成広島県民会議が実施する「夢配達人プロジェクト」に、宇品東小学校の子どもたちが「手話を教えてもらい、耳の聞こえない人や地域の人に、手話で紙芝居や劇をしたい。」という夢を応募し、採用されて実現しました。

子どもたちは、半年間、手話の先生に手話を教えてもらって、11月に、学校の発表会で地域の人や広島南特別支援学校の子どもたちも上演することとなりました。

子どもたちのひたむきな演技に、参加者からは「感動した。その姿を見て、子どもたちに何かできることをしなければ、と思った。」、「このような子どもに出会って、きつと次の社会をしつかり担ってくれると

思い、明るい希望をもった。」といった感想が寄せられました。

講演と事例発表

京都大学学術情報メディアセンター准教授の上原哲太郎さんに、「子どもの『ネット安全』に大人の力を」というテーマで講演をしていただきました。

上原さんは、「ネット」や「ケータイ」は、現代社会に不可欠な存在になっているが、「自己責任社会」という前提に立った設計のため、子どもの利用に際して危険な側面があることを指摘されました。そして、パソコンや携帯電話の購入が保護者によって行われているので、加害・被害について保護者にも責任があること、フィルタリング機能を利用したり、パソコンをリビングに置いたりするなどの使用のルールを決めることが必要であると訴えられました。



上原 哲太郎 さん

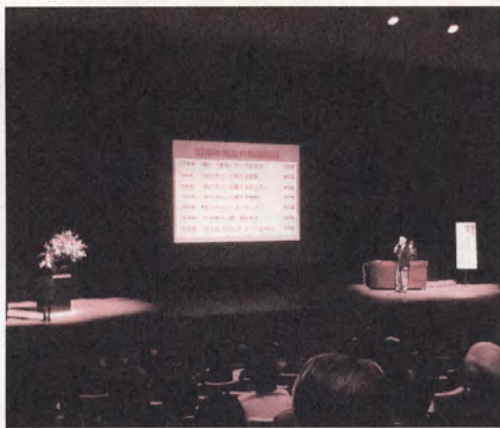
参加者からは「保護者にとって関心の深いものであり、取組の具体がわかってよかった。」「ネットの危険性を大人がしっかりと認識して、子どもと向き合っていくことが必要と感じた」といった感想が寄せられました。

最後に、「地域における子どもの安全を

守る活動事例」というテーマで、次の二つの地域からそれぞれの取組の発表がありました。

中区、中島地区・吉島学区・吉島東学区
「三学区合同ペットボトル競技会」
安佐南区、長東学区「子ども見守りと青少協活動」

参加者からは、「子どもたちに、地域の大人に見守られて、大きくなったという気持ちや醸成するために、地道な取組の継続が大切だと実感した。」「このような取組をぜひ自分の学区でもしたい。」といった感想が寄せられました。



この市民大会は、多くの参加者にとって、青少年育成のあり方を今一度、考えさせられる場となったとともに、「地域の子どもを地域で育て、地域で守る」ことを再認識できる場となったのではないのでしょうか。

当日、表彰された方々は次のとおりです。

《広島市青少年健全育成成功労者等

市長表彰

模範活動団体

- 草津剛剣会スポーツ少年団
 - 広島い妻鯉城館スポーツ少年団
 - 川内剣道教室スポーツ少年団
 - 昆沙門台剣道教室スポーツ少年団
 - 広島志尚会スポーツ少年団
 - 安剣道教室スポーツ少年団
 - 安東少年野球団スポーツ少年団
- 育成成功労団体**
- 広島市交通安全運動推進隊連絡協議会
 - 広島中央交通安全運動推進隊
 - 広島西交通安全運動推進隊

青少年健全育成成功労者

- 【青少年健全育成連絡協議会】
 - 南区 森本 利雄
 - 安佐北区 岡田 弘
- 【子ども会育成指導員】
 - 西区 奥村 香
 - 安佐北区 西田 昭生
- 【スポーツ少年団指導者】
 - 安佐南区 手賀 剛・濱本 和信
 - 佐伯区 北村 昭夫
- 【ガールスカウト日本連盟広島県支部】
 - 西区 笠岡 貞江
- 【青少年指導員】
 - 南区 櫻谷 久登・西屋 登美子
 - 原田 芳雄
 - 西区 神村 登紀恵・西本 幸男
 - 横川 健壯
 - 安佐南区 矢山 精一

安佐北区 石井 律子・長町 波子
安井 功子
《広島市青少年健全育成連絡協議会

会長表彰

【地区(学区) 青少年健全育成

連絡協議会 会長】

- 中区 片岡 功・小林 義孝
- 東区 光永 暢博
- 南区 梅田 憲夫
- 西区 平田 龍男
- 安佐南区 山本 喜一郎
- 佐伯区 谷村 敏彦

【地区(学区) 青少年健全育成

連絡協議会 役員】

- 南区 塩田 涼子・竹浪 克彦
- 長尾 澄子・政廣 順三
- 松本 秀樹

表彰をお受けになられた皆様、おめでとございます。

青少年からのメッセージ

「友だち」をテーマに作文や漫画・イラスト形式による「青少年からのメッセージ」を募集しました。今年も、過去最高となる6,819点の応募があり、このうち16点が入選作品に選ばれました。

市民大会では、入選者の皆さんの表彰が行なわれました。

また、入選作品を含む69作品を掲載したメッセージ集を学校、図書館などに配布していますので、ぜひお読みください。

入選された皆様は、次のとおりです。また、一席に選ばれた4作品を紹介します。

【作文部門】

《小学生の部》 応募総数 2,038点

- 一席 五田市観音西小学校6年 廣瀬 紫
- 二席 舟入小学校6年 杉浦 雄
- 佳作 福木小学校3年 村穂 桃
- 佳作 緑井小学校6年 幸田 みのり

《中学生の部》 応募総数 4,039点

- 一席 城南中学校1年 山縣 ののか
- 二席 落合中学校3年 小田 優鳳
- 佳作 祇園東中学校3年 澤山 かおり
- 佳作 東原中学校1年 松井 七海

《高校生・一般の部》 応募総数 526点

- 一席 広島城北高等学校1年 小林 優
- 二席 美鈴が丘高等学校2年 亀崎 綾花
- 佳作 美鈴が丘高等学校2年 一木 一俊
- 佳作 県立広島商業高等学校3年 古武 由佳

【漫画・イラスト部門】 応募総数 216点

- 一席 県立広島商業高等学校2年 児玉 栞
- 二席 原南小学校6年 野中 祐希
- 佳作 県立安芸高等学校3年 岡田 理穂
- 佳作 大塚中学校2年 向井 優香

【敬称略】

【作文部門】

小学生の部 一席

『友達のおかげで』

五田市観音西小学校6年 廣瀬 紫
私には友達がいなかった時があります。毎日学校に行くのがいやになるほどでした。

地区青少年健全育成 連絡協議会活動報告

安佐北区・鈴張地区青少年協議会 二堂 英政

広島市の最北端、花と緑の町、安佐町、その北部に位置し、中山間地の山あいの町、少子高齢化の進む典型的な地区になりつつあります。

児童生徒の数もひところの約三分の一近く減少して淋しくなりましたが、子どもたちは元気に健やかに成長しています。「犯罪のない、安全、安心な町づくり」の一環として、学区安全対策連絡協議会を青少年協が中心となり、各種団体の方々の深いご理解と協力を得て立ち上げました。

その内容は四つの部会（登下校見守部会、通学路整備部会、公園・遊び場部会、校内安全・パトロール部会）を作り、それぞれが子どもたちに事故の無いよう、そして子どもたちが感謝出来る子になってくれることを願って、緑のベストを着用して活動しています。

また、毎年、夏休み中の週末に、青少年協が主催で夜間巡回を行っています。青少年指導員を中心に、22時から子どももの非行防止、犯罪防止に努め、青少年の健全育成を行っています。

「110番の家」お礼の会

「110番の家」お礼の会は、今年で三年目になります。これは、地区内93戸の家に、登録をしてもらっている「110番の家」

「110番の家」の方に感謝し、お礼を言っ、自分の家に帰宅するといふもので、今年は二月四日（木）に行いました。

全校生徒が校庭に集合し、登下校サポート隊の方へお礼の会をした後、三十の班に分かれて、各班長さんを先頭に下校します。

見守り隊、サポート隊、保護者、PTAの方、児童館の方、先生方などが、各班にそれぞれ1〜3名ずつ付き添って、それぞれの通学路の「110番の家」を探し、その家の方に、みんなで挨拶をし、お礼を言って、自分たちが書いたお礼文などを入れた封筒を渡します。留守の家には、ポストに入れておきます。「地域の子は、地域で育てよう」「声かけ励まし、きちっと叱る」「子どもは地域の財産、国の宝」をモットーにがんばっています。



学区子ども会 育成協議会活動報告

西区大芝学区子ども会会長 平岡 弘幸

文化祭をきっかけに大変身

ある大変おとなしく、自分から発言したり、人前に出たりするのが苦手な女の子がいました。その子があることをきっかけに大変身したのです。まわりの大人も先生もびっくりしました。そのきっかけが子ども会の活動でした。

西区子連の文化祭に出場するために募集があった時、友達も誘いもあり、参加したそうです。演出される方が、参加してくれる子ども達に合わせて演劇の内容と配役を決められますが、配役が発表されると、その子には少し無理かな？と思えるほどのハードルの高い役でした。

でも練習が始まりせりふを覚え、演技を覚えるうちに段々と面白くなってきて、家に帰ってもよく練習していたそうです。そしてある日を境に、それまでのような小さな声ではなく、大きくはっきりとした声でせりふが言え、堂々と演じられるようになっていました。

また、学校でも自分から手を上げて大きな声で発表できるようになり、友達も先生もびっくりされたそうです。

興味を持ち努力することで、ご両親からも友達・指導者からも、褒められ認められ、段々と自信が湧いてきて、それが行動に出た結果だろうと思います。

この話を聞いた時、子ども会に関わっ

てきて本当によかったと感じるとともに、そんな子ども達の成長の手助けをして下さる方々に感謝したい気持ちで一杯になりました。

子ども達は無限の可能性を秘め、日々成長しています。それを引き出すきっかけを作ってあげることが、私たち指導者の役割だと思っています。

そして、その成長を喜び、こういった感動の瞬間に立ち会えることが、その醍醐味なのかもしれません。

大芝学区は、文化的な活動の面では大変恵まれた地域だと思っています。

また同時に昔ながらの伝統や風習、地域や人と人のつながりを大切にすればらしい町です。

これからも、地域・家庭・学校の連携を大事にしながら、子ども達の無限の可能性を信じ、その成長を見守っていきたいと思います。

